

初恋相手

の先輩が

まさかの風俗嬢に！

夜のおもてなしです...

天音さんの

膣内に

ナマ中出し

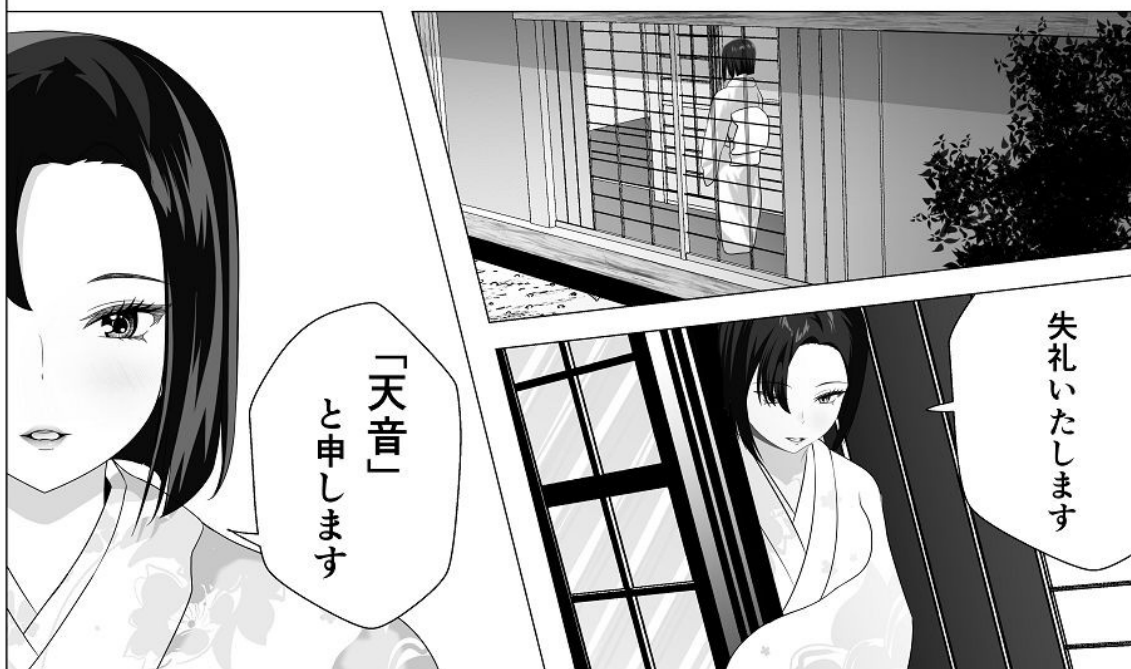
31p



心静かに

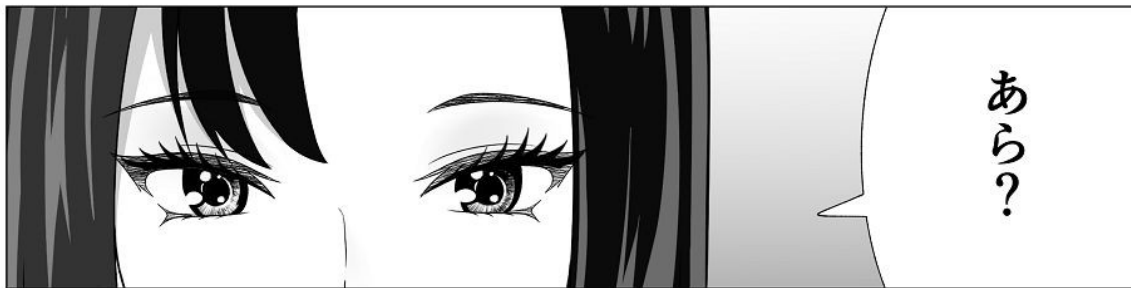
豊かに

変わらぬ心で
おもてなしを…

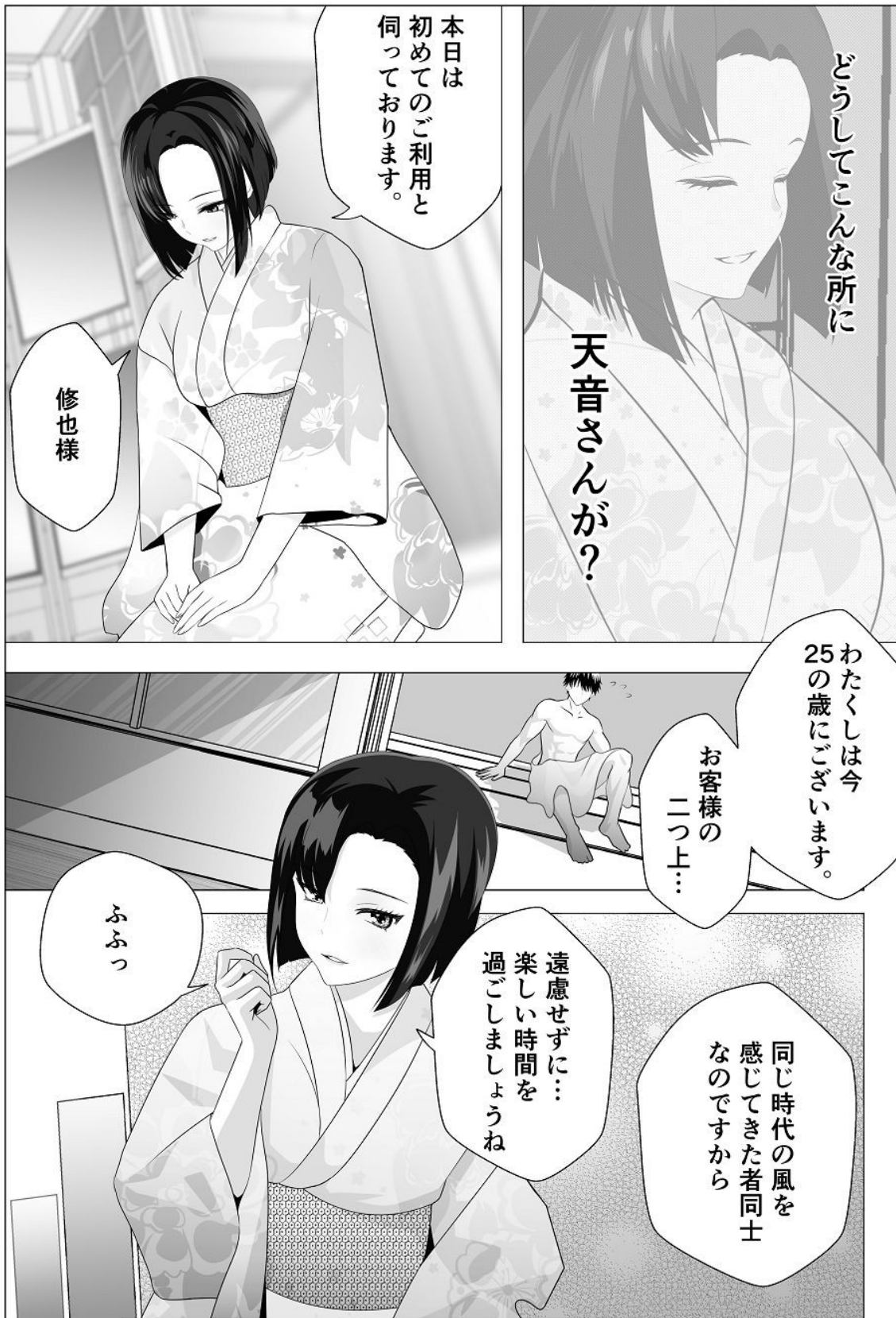


「天音」
と申します

失礼いたします









深呼吸して
ください…

あれ？
もしかして…

引き締まった
お体…

カチカチです

いや…

僕だって…

気付いてない？

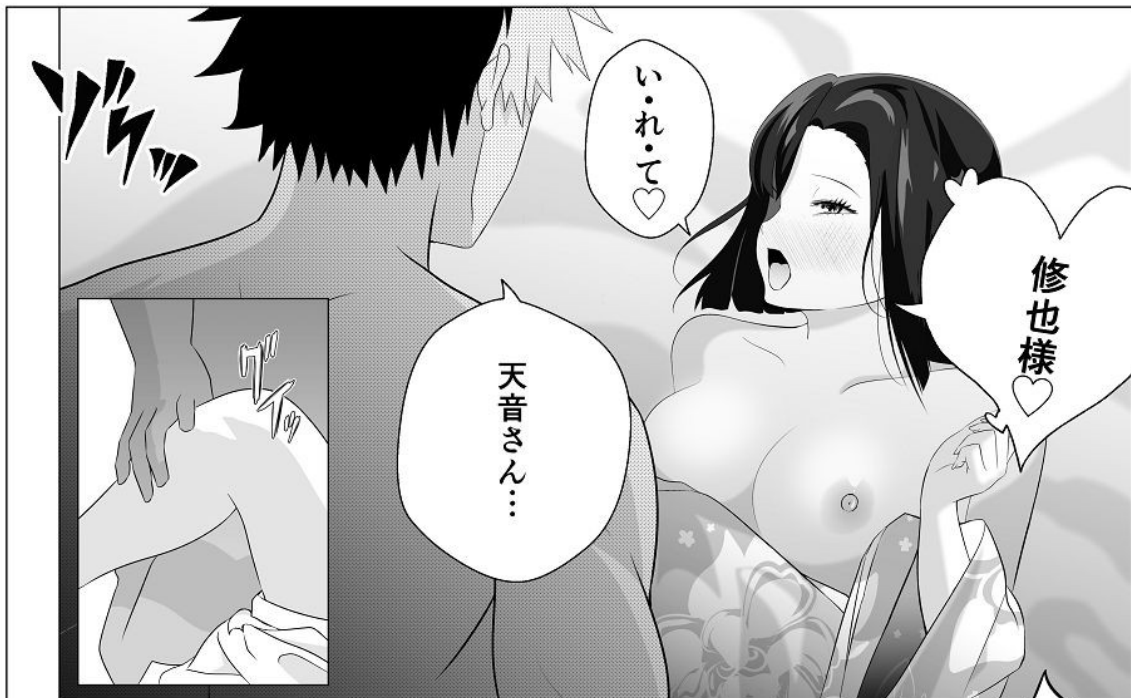
胸がお好き
なんですよね？

天音さん…

ドキ

ドキ



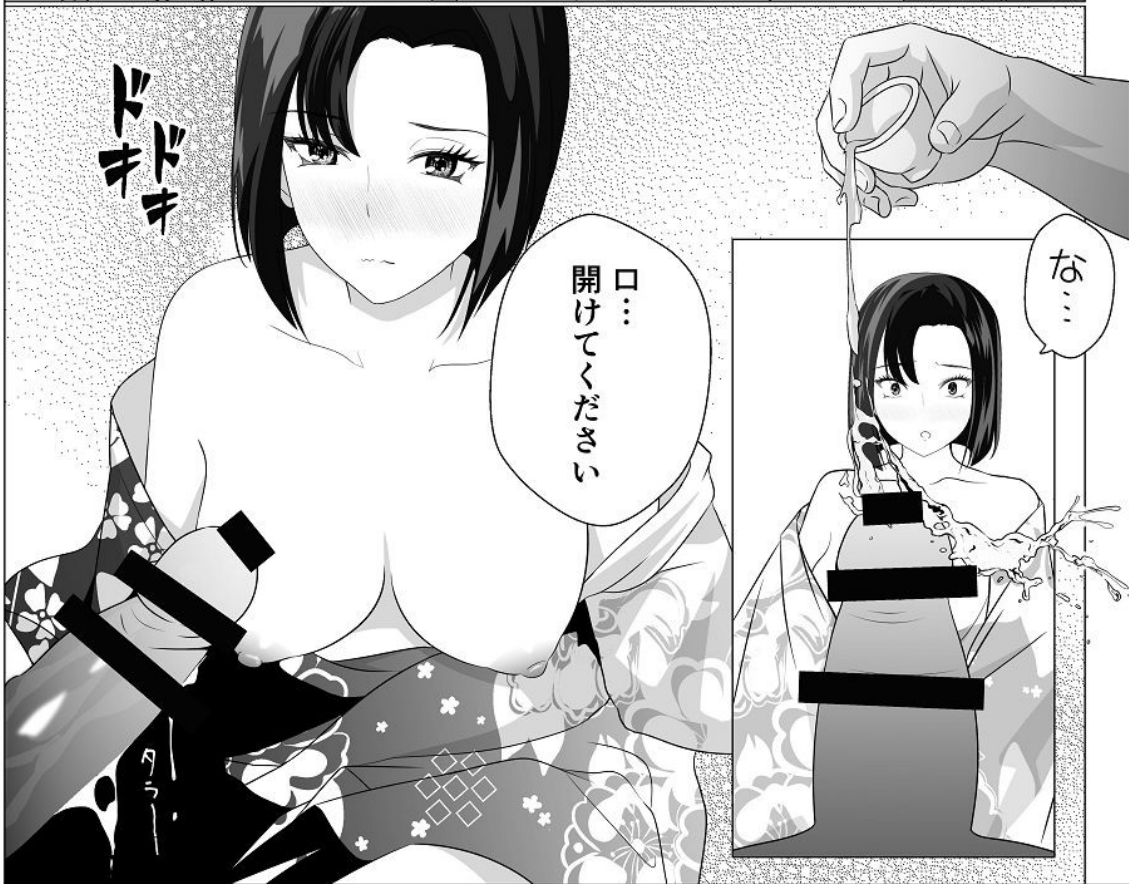
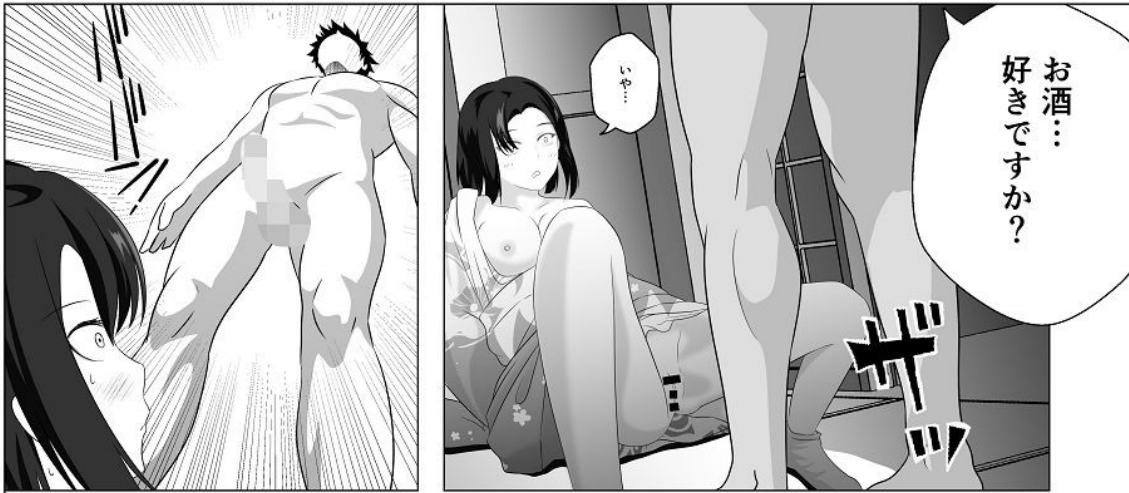








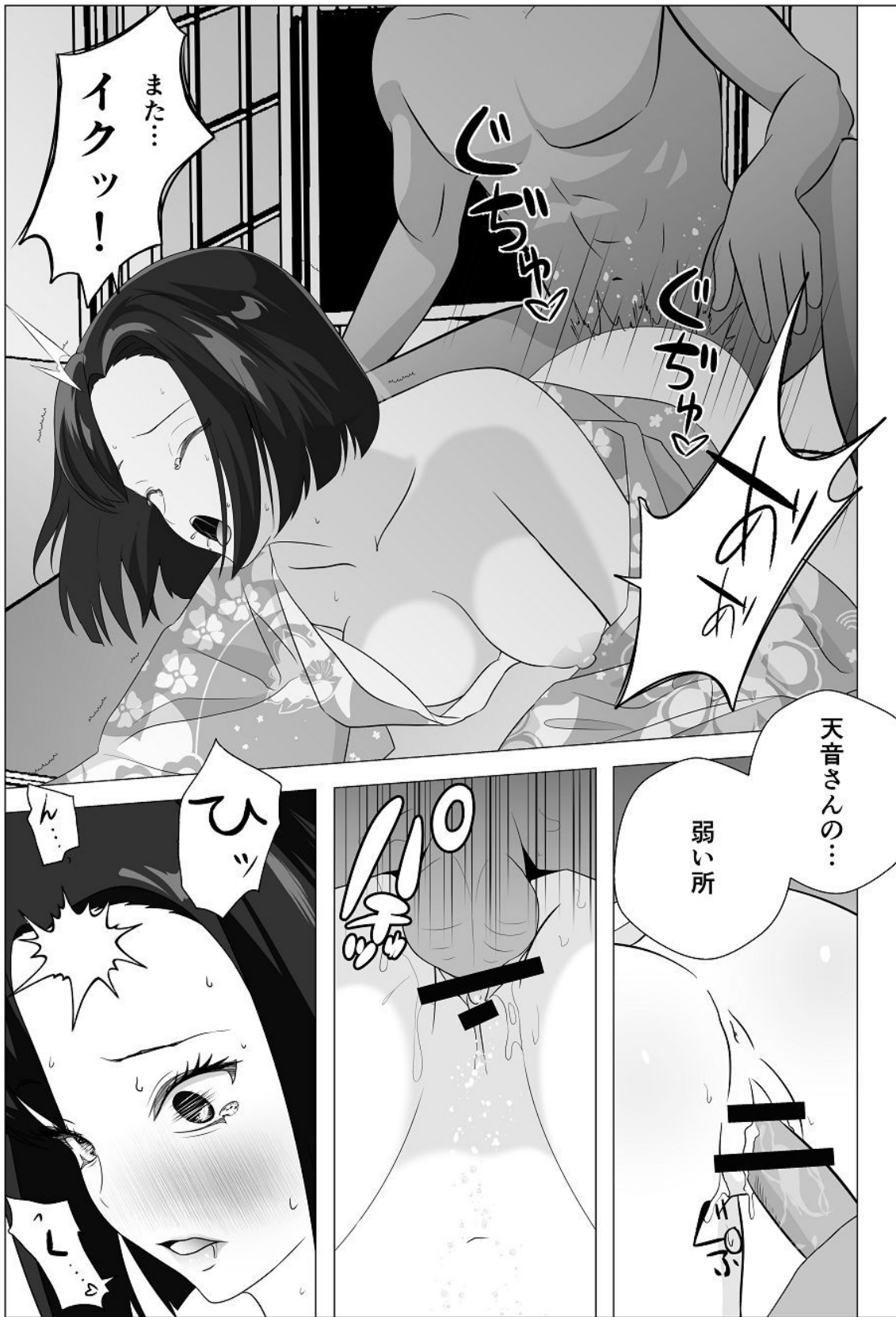


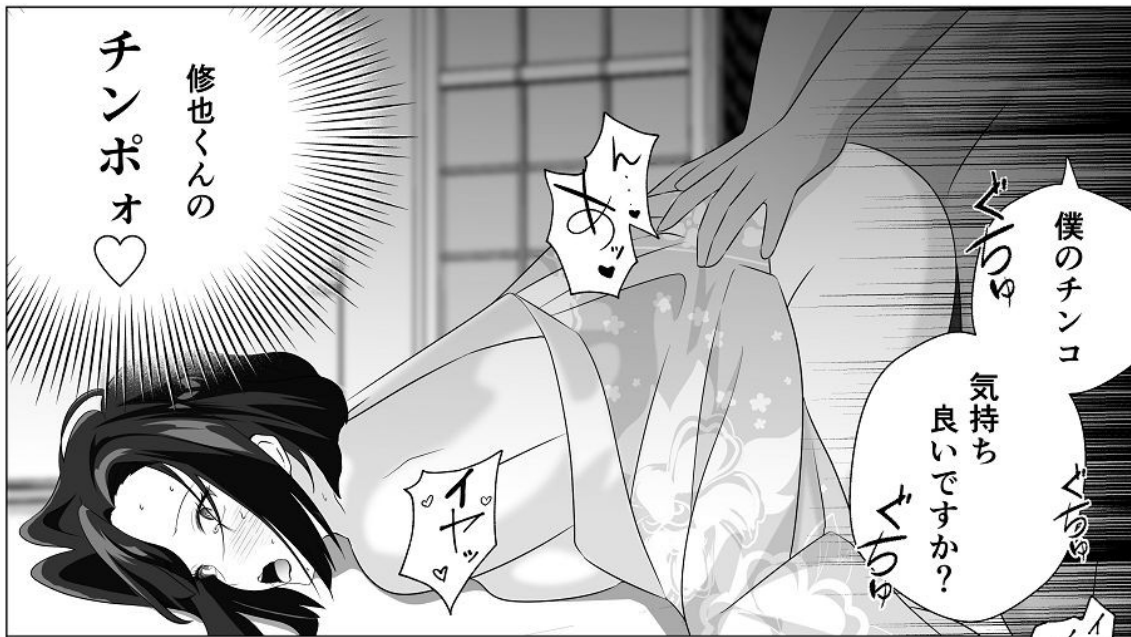














好きです

天音さん

あッ♡

そんな嬉しい事
言われたらあ…

ちよろ

イクッ
イクッ

私…!

ドクッ

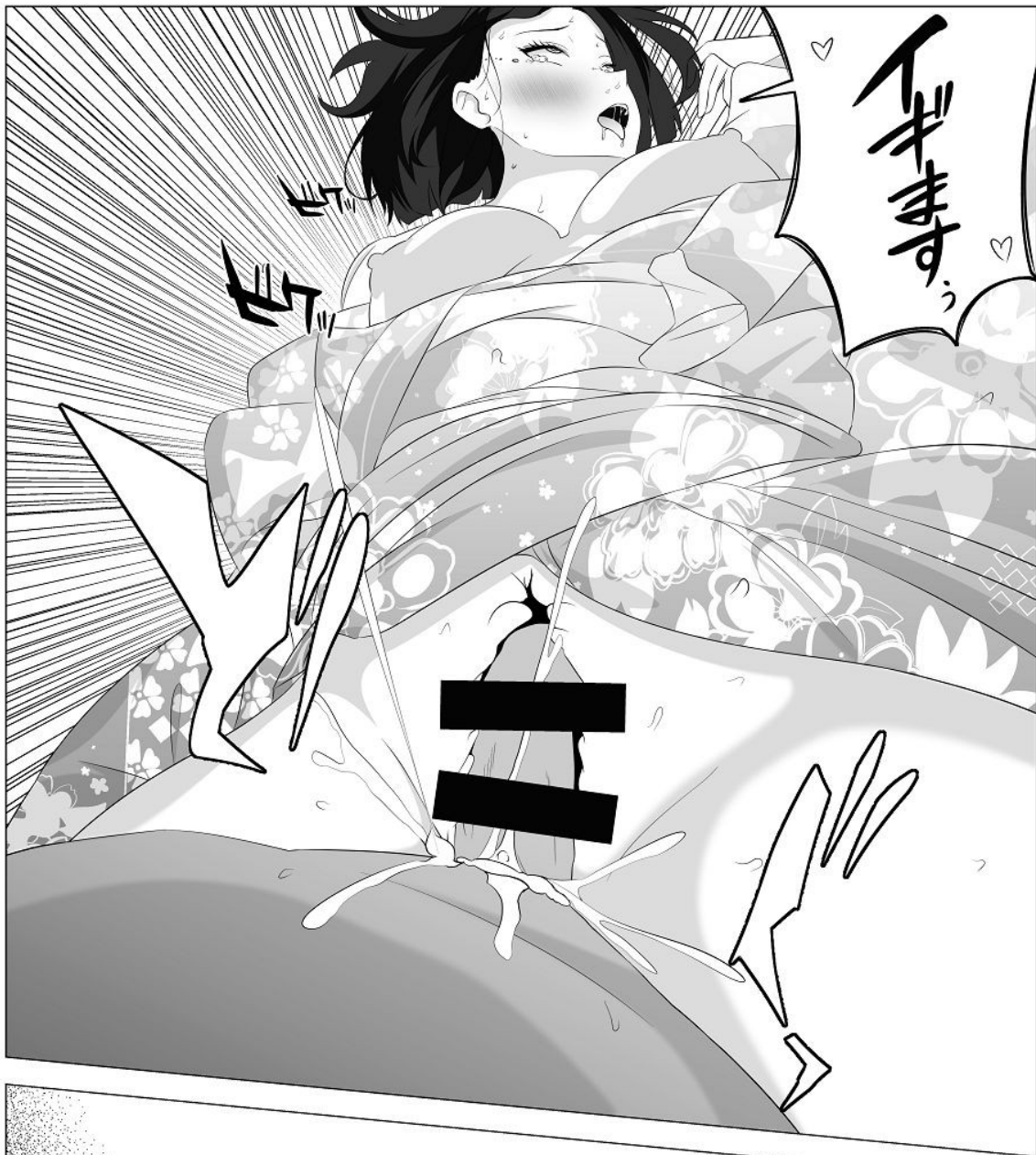
ドクッ

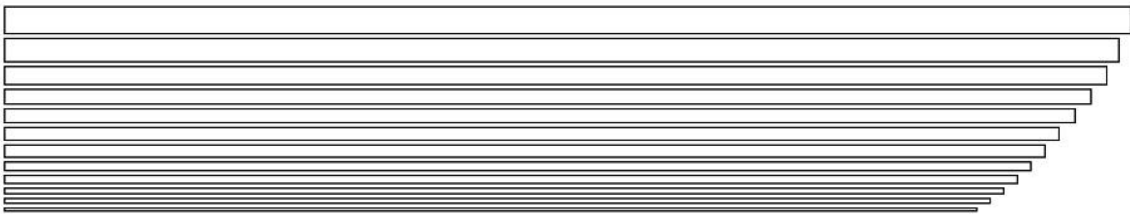


















あとがき

外は冷え始め、暖かいものが恋しくなる季節になりました。
寒くなると、やっぱりカレーとかシチューが食べたくなりますね。
そして、気づけば漫画を描き始めて約一年が経ちました。早すぎです。
これからの抱負を語る前に、軽い失敗談を1つ話します。
1年を通して漫画制作に取り組むと、その過程が料理と非常に
よく似ていることに私は気づきます。だいたいの味はもう、
素材と火加減で決まっているという事です。
素材はそうです。女の子の個性。皆さんもよく耳にするとと思いますが、
「貧乳が至高！」とか「巨乳が正義！」だとか。
平原と山岳の違いなんてカレーかシチューぐらいの違いだと、
私は思います。どちらも美味しいければいいじゃないの。
と、言うわけだったので...
この漫画。実は貧乳の女の子で描くつもりだったんです。
カレーが1歩リードしててもシチューだってそんなに負けてはない。
個性の魅力を信じたい！って...
でも気づけば、絶壁に直面。文字どおりです。
カレーというのは、もう何を入れても受け止めてくれる懐の深い料理。
では、シチューの場合。優しくて上品な料理です。
でもシチューには、カレーみたいに全部をまとめて救う万能の
スパイスはありません。ですから、味がぼんやりしてても、それは
料理のせいじゃない。
てことはもう、自分の味付けや火加減のせいですね。つまり今の
実力で貧乳ヒロインを描いても、上品で美味しいシチューは
完成しない。そう気付いた私は、急いでシチューをカレーに
変身させたのです。
この経験を踏まえ2年目は、シチューをより一層美味しく作れる様、
精進してまいる所存でございます。(抱負)

～最後に～

購入してくださった皆さま。本当にありがとうございます。
これからも、作品を通して女の子の魅力をお届けできれば嬉しいです。
応援よろしく願いいたします。

ずん子